

松川第二排水区大規模雨水処理施設整備事業計画（富山市）

（様式１）

項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	松川第二排水区は、昭和２７年から整備を開始した合流地区であり、富山駅の周辺に位置し、大部分が商業地域の本市の中心市街地である。区域内には、地域防災計画に位置付けられた国道４１号及び県道２０８号線といった緊急輸送道路があり、周辺には防災拠点、地区センターや小学校など避難所が存在し、また、富山市立地適正化計画において都市機能誘導区域の中心部に位置付けられていることから、都市機能が集積した地区である。合わせて、内水浸水シミュレーションにより浸水面積が約２１haと１ha以上の浸水が想定される地区であることから、早急な浸水対策が急務である。
整備目標	① 本計画における対象降雨 ・ 本計画におけるハード・ソフト含めた対象降雨：75mm/hr ・ 目標とする理由：昭和４５年８月に既往最大降雨 ・ ハード整備による整備水準の目標：５８mm/h（1/10確率降雨） ②目標設定 i)生命の保護の観点：公助だけでなく自助・共助も含めて施設（地下街等）への浸水が防止できるレベルとして、止水板等の設置を前提に浸水深５０cm以下とする。 ii)都市機能の確保の観点：幹線道路・緊急輸送路の機能保全水深を２０cmと設定する。 iii)個人財産の保護の観点：床上浸水を防止するため、機能保全水深を４５cmと設定する。 iv)その他：特になし 備考）浸水対策の観点（生命の保護，都市機能の確保，個人財産の保護等）から目標設定を行い，その内容について具体的に記述 ③ハード対策，ソフト対策及び自助の役割分担について i)ハード対策 施設整備により５８mm/h（1/10 確率）の降雨において浸水被害を防止することを目的とする。 ii)ソフト対策及び自助 施設整備で対象とする降雨量を上回る既往最大降雨 75mm/h の降雨において、下水道管理者による内水ハザードマップの作成・公表などの情報提供、地域住民等による土嚢の設置など、それぞれの主体が対策を速やかに実施することで被害をできるだけ小さくすることを目的とする。

項 目	内 容 ・ 施 策 等			
内水ハザードマップ策定状況	有 (平成25年4月策定済み) ・ 策定予定 (令和〇年〇月末策定予定)			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	・ 雨水管渠の整備 延長 約3.3km
			下水道管理者以外	・ 排水路の改修 (建設部河川整備課) ・ 放水路、調整池の整備 (富山県土木部河川課)
		ソフト対策	下水道管理者	・ 内水ハザードマップの作成・公表
			下水道管理者以外	・ 防災情報の配信 (建設部防災対策課) ・ 自主防災組織結成・訓練への支援 (建設部防災対策課)
	自助	ハード対策		・ 土嚢の配備 (建設部道路河川管理課) ・ 止水板の設置 (地下施設管理者)
		ソフト対策		・ 自主訓練 (自主防災組織8組織)

備考) 事業内容については主な施策について具体的な実施数量を記述

また、下水道管理者以外が行う施策については、道路管理者など実施主体、制度要綱等を具体的に記述

- * 下水道浸水被害軽減総合事業の要件に該当し、当該事業による制度拡充分にあたる施設の整備を実施する場合には、該当する施設をすべて記載すること (別紙可、下水道浸水被害軽減総合事業の様式を参照)。なお、下水道浸水被害軽減総合計画を策定済みの場合は、その施設調書を添付すること。
- * 下水道総合地震対策事業の要件に該当し、当該事業による制度拡充分にあたる施設の整備を実施する場合には、該当する施設整備を総合地震対策計画に位置づけること。
- * 下水道施設の改築 (浸水に対する安全度の向上を伴わないもの) を実施する場合には、当該施設の改築を下水道ストックマネジメント計画に位置づけること。(総合地震対策計画に位置づけられている場合を除く)

年度計画 (百万円)

名称	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	計
雨水管渠	134	287	302	302	278	1,303
計	134	287	302	302	278	1,303

備考) 事業内容に位置づけた施設について年割額 (事業費) を記述。

整備済のものは含めない。

項 目	内 容 ・ 施 策 等
整備効果	<事業評価の内容> 浸水被害の軽減便益：34,954.4百万円が削減される。 B/C：4.87 経済的内部収益率：13.7% ・機能向上を伴う場合：雨水排水能力を増強し、対応降雨を1/3 対応から1/10対応に強化 ソフト対策，自助の整備効果等： 内水ハザードマップによる情報提供及び止水板の整備を併せて行い，地下街等への浸水 を防止するとともに，既往最大降雨に対し機能保全水深50cmを達成する。
放流先河川との調整状況	現在，放流先河川の整備水準は56.6mm/h対応となっているが，今後，放水路や調整池 の整備により目標水準65.6mm/hまでの整備を行う予定である。整備にあたっては，河 川管理者及び下水道管理者にて適時協議を行い，調整を図りながら事業を進捗してい く。
その他	河川管理者，防災担当部局，地域住民等と連携し，下水道浸水被害軽減総合計画を平成 29年に策定した。次年度以降、次期計画に基づく事業の実施を予定しているが、その計 画内容とも整合が図られている。

(参考図面)

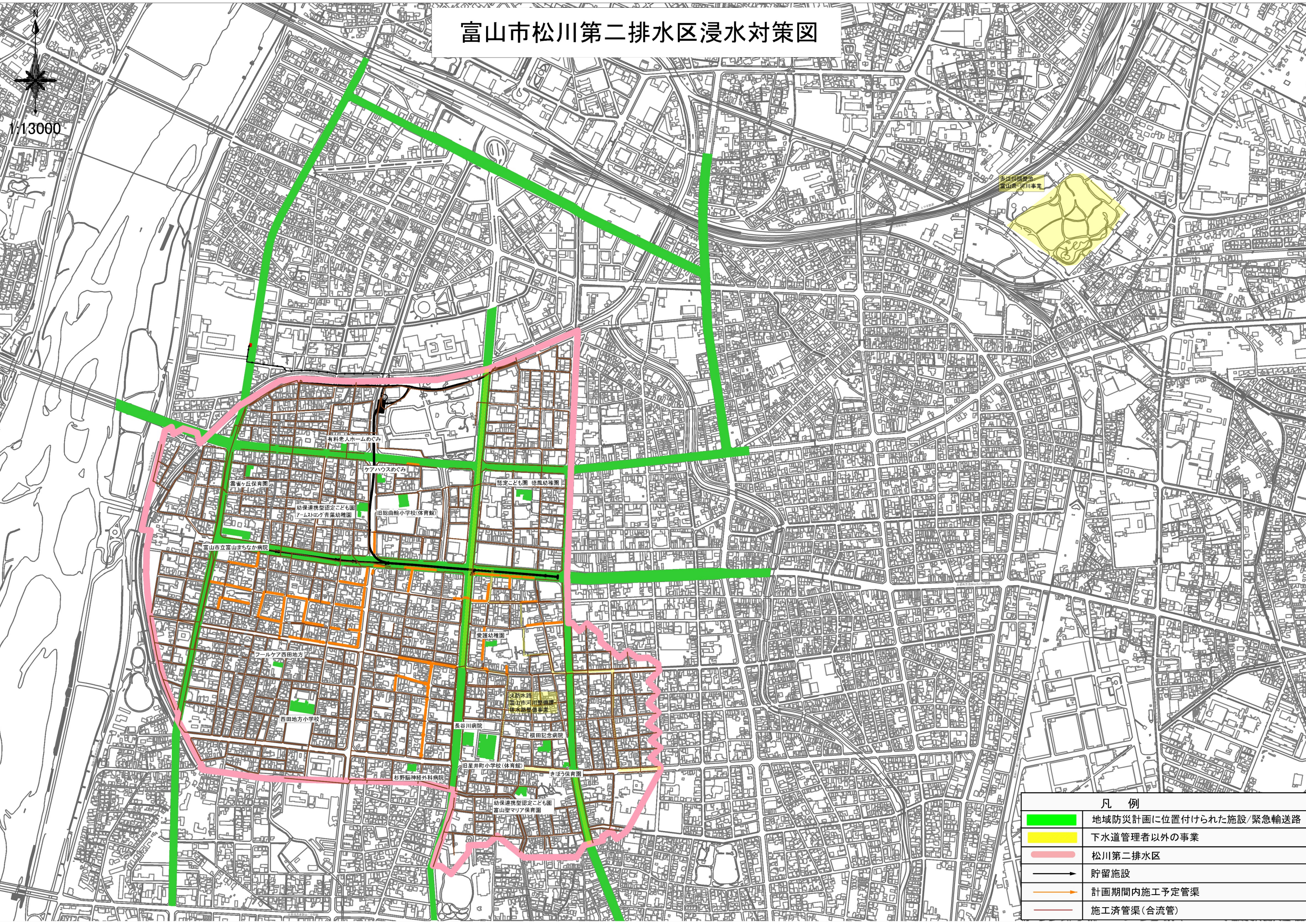
1. 使用図面

5,000～10,000 分の 1 程度で計画内容がわかるようにする。

2. 図面記載内容 ＊あくまで記載方法の一例である。

記載内容	色別	適用
貯留施設 施工済 計画期間内施工予定 集水区域	黒 赤 青	貯留施設を 2～3mm の実践で書く。 施設名を記入。 集水区域を 5mm 幅程度で囲む。施工済の場合は黒で全体を薄く塗りつぶす。
浸透施設 施工済 計画期間内施工予定 整備区域	黒 赤 青	対象区域を 5mm 幅程度で囲む。 施設名を記入。 対象区域を 5mm 幅程度で囲む。
ポンプ施設 施工済 計画期間内施工予定	黒 赤	直径 5mm の円に P で表現。 色で塗りつぶす。
雨水又は合流管渠 施工済 計画期間内施工予定	茶 橙	昭和 46 年 10 月 9 日付建設省告示第 1705 号の別表に定める基準に適合する管渠を 1mm の実線で書く。 管渠名を記入。
計画対象区域界	桃	2mm の実線。
① 駅	緑	色で塗りつぶす。 施設名を記入。
② 災害対策基本法に基づく地域防災計画に位置付けられた施設(緊急輸送道路, 防災拠点等)		
③ 国の防災関係機関や県庁, 市役所等の施設		
④ 高齢者・障害者等要配慮者関連施設		
⑤ 床上浸水被害の未解消地区	水色	水色で全体を薄く塗りつぶす。
⑥ 下水道管理者以外の主体との連携により行われている整備	黄色	黄色で全体を薄く塗りつぶし, 事業主体と事業名を記載。
⑦ 防水ゲート, 止水板又は逆流防止施設		
⑧ 各戸貯留浸透施設		

富山市松川第二排水区浸水対策図



凡 例	
	地域防災計画に位置付けられた施設/緊急輸送路
	下水道管理者以外の事業
	松川第二排水区
	貯留施設
	計画期間内施工予定管渠
	施工済管渠(合流管)